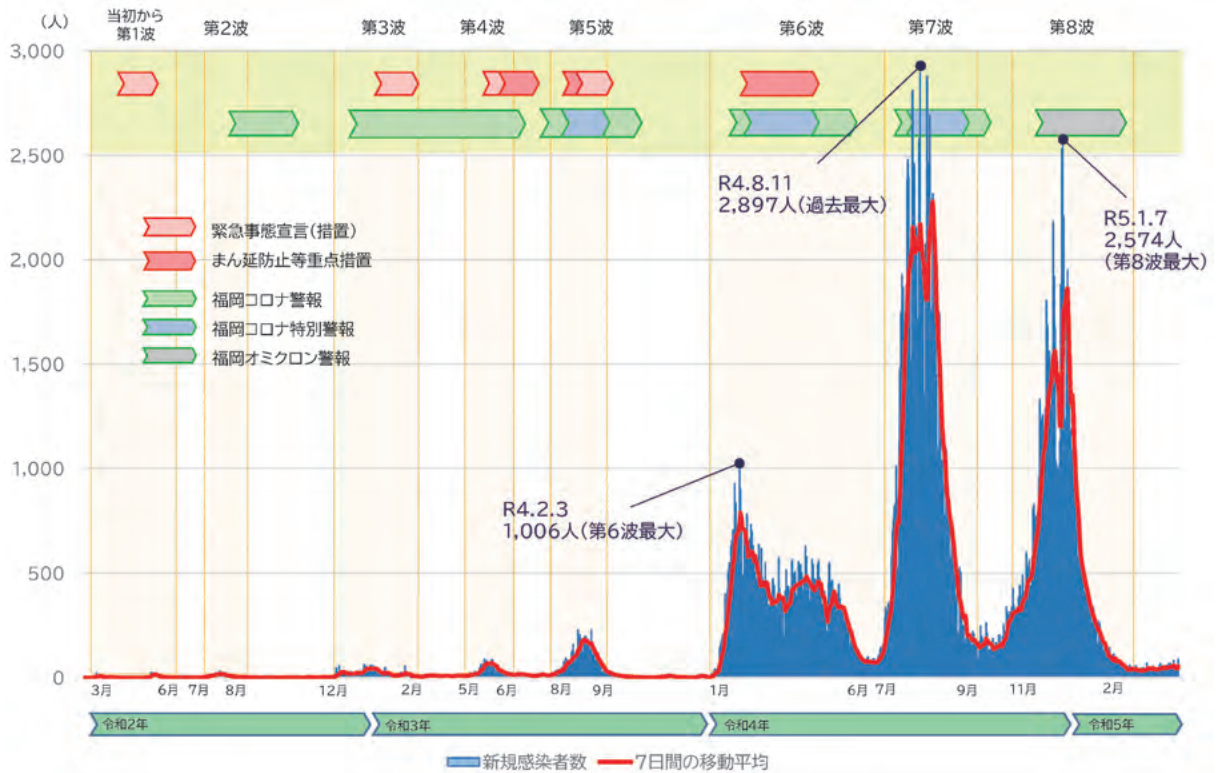


# 第1章

## 感染状況

【北九州市における感染者数の推移】



# 1 北九州市における感染状況

## (1) 感染発生～第1波(令和2年3月～6月※)

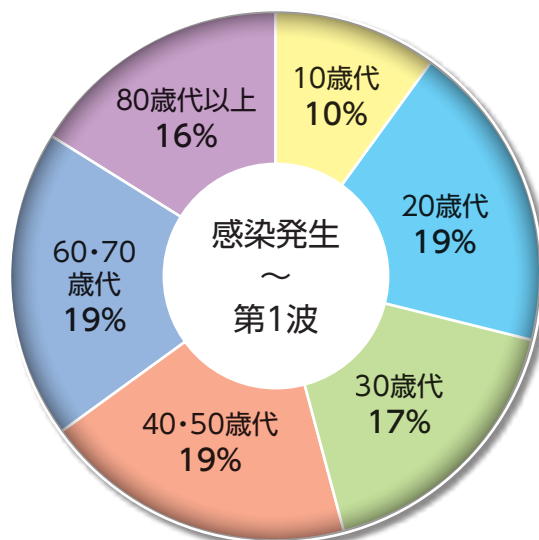
※「感染発生から第1波」の定義を本対応記録では令和2年3月1日～6月30日とする。

- 令和元年12月、中華人民共和国湖北省武漢市で新型コロナウイルスの感染者が確認され、国内では令和2年1月15日に初の感染者が確認された。
- 北九州市では、国内で初の感染者が確認された令和2年1月に「新型コロナウイルス感染症に関する北九州市感染症対策連絡会」を開催し、医療機関と行政の連携のもと、迅速に対策の検討を開始した。また、同年2月には市長を本部長とする「北九州市新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、最新情報を共有するとともに、感染者発生時の対応や、今後の対策などの検討を重ねた。
- 令和2年3月1日に北九州市で初の感染者が確認された。
- 令和2年4月7日、政府は緊急事態宣言を福岡県を含む7都道府県に発出(16日には全国に拡大)し、不要不急の外出やイベントの開催を控えること等が要請された。この措置は5月14日まで実施された。
- 市立学校では、国からの「全国すべての小・中・特別支援学校・高等学校において臨時休業」とする旨の要請に基づき、令和2年3月2日から、すべての市立学校で一斉休校(臨時休業)とした(同年5月24日まで)。
- 全国的に感染状況が落ち着き、本市でも4月29日から5月22日まで感染者は0人であったが、5月23日から6月中旬にかけて本市での感染者が増加した。
- 5月29日には、当時の本市における1日の感染者数は過去最大となる26名であった。この日の全国の感染者数が73人であったため、全国の約35%が本市で発生したこととなる。

データ項目	数値	備考
感染者数	245人	令和2年3月・4月まで：76人 令和2年5月：97人 令和2年6月：72人
1日の最大感染者数	26人	令和2年5月29日
重症者数	12人	重症率：4.90%
死亡者数	6人	死亡率：2.45%
検査数	9,995件	
1日の最大検査数	431件	令和2年6月6日
直近1週間の10万人あたりの累積新規感染者数(最大値)	11.20人	令和2年6月2日
クラスター疑い事例数	7件	

※本市保健所で把握した数値を記載

感染者の年齢構成



## (2) 第2波 (令和2年7月20日～ 8月31日※)

※「第2波」の定義を本対応記録では令和2年7月20日～ 8月31日とする。

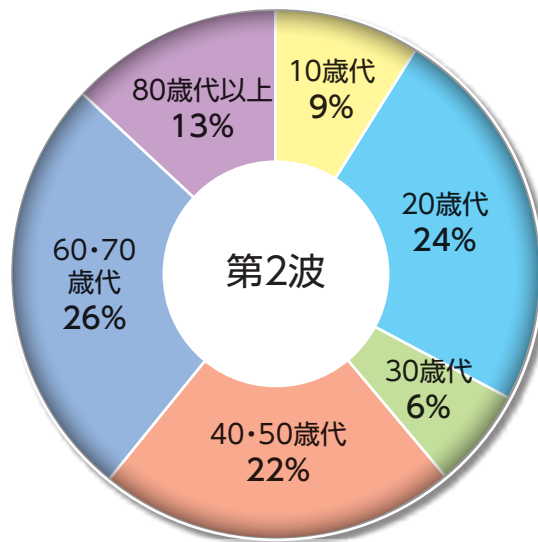
- 令和2年7月に入って、感染状況は落ち着いた状況であったが、下旬頃より増加傾向となり、次第に感染が拡大していった。
- 7月26日には、初めて飲食店におけるクラスター疑い事例が発生した。特に、昼カラ(昼にカラオケができる飲食店)において感染者が相次いで確認されるとともに、高齢者施設での大型のクラスター疑い事例が発生した。
- 福岡県は、県内の感染拡大を受け、令和2年8月5日に「福岡コロナ警報」を初めて発出し、県民に対し、酒類の提供を行う飲食店等の利用制限(2時間以内)が要請された(10月8日解除)。
- 第2波では、入院者数が増加したことから、市内の医療機関に対し、病床の確保や患者の受入れについて協力要請を行った。
- 第1波と比較して、感染者の年齢構成が現役世代から高齢者へと推移した。

データ項目	数値	備考
感染者数	367人	令和2年7月(20日～)：82人 令和2年8月：285人
1日の最大感染者数	33人	令和2年8月8日 ※第2波までの過去最大
重症者数	18人	重症率：4.90%
死亡者数	10人	死亡率：2.72%
検査数	12,117件	
1日の最大検査数	530件	令和2年8月6日 ※第2波までの過去最大
直近1週間の10万人あたりの累積新規感染者数(最大値)	14.52人	令和2年8月10日 ※第2波までの過去最大

データ項目	数値	備考
クラスター疑い事例数	7件	

※本市保健所で把握した数値を記載

感染者の年齢構成



### (3) 第3波 (令和2年12月～令和3年2月※)

※「第3波」の定義を本対応記録では令和2年12月1日～令和3年2月28日とする。

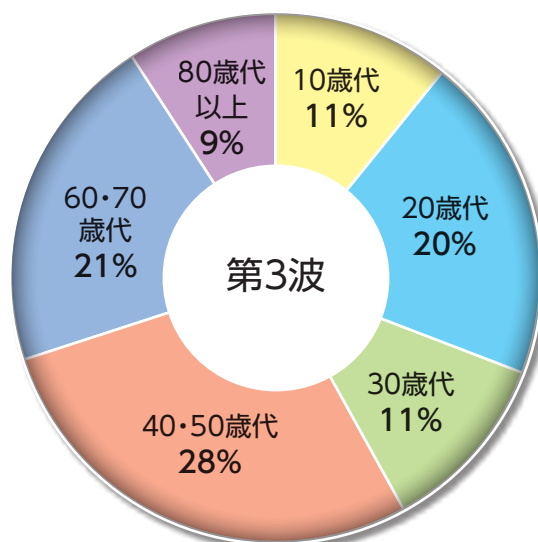
- 令和2年12月に入ると、市内の障害者施設での大型のクラスター疑い事例が相次ぎ、市や施設関係者は感染対策や療養体制の確保などの対応に追われた。
- 感染者は次第に増加し、令和3年1月6日には、第3波までで本市の最多となる64人の感染者が発生した。
- 1月中旬には成人を祝した会食等が原因とみられる新成人の市民の感染が相次いで確認された。
- コロナ病床の病床使用率については、第3波を通して7割～8割で推移するなど、高い水準にあった。
- クラスターについては、これまでに発生しなかった障害者施設等の福祉施設や会社・官公庁でも疑い事例が確認され、第3波での全感染者数に占めるクラスター疑い事例に関する感染者数は約24%を占めた。また、1件あたりの感染者数が多く、かつ、発生期間が長い大型のクラスターが相次いだ。

データ項目	数値	備考
感染者数	1,910人	令和2年12月：577人 令和3年1月：997人 令和3年2月：336人
1日の最大感染者数	64人	令和3年1月6日 ※第3波までの過去最大
重症者数	39人	重症率：2.04%

データ項目	数値	備考
死亡者数	25人	死亡率：1.31%
検査数	44,644件	
1日の最大検査数	1,090件	令和3年1月13日 ※第3波までの過去最大
直近1週間の10万人あたりの累積新規感染者数(最大値)	33.15人	令和3年1月10、11日 ※第3波までの過去最大
クラスター疑い事例数	28件	令和2年12月：12件 令和3年1月：10件 令和3年2月：6件

※本市保健所で把握した数値を記載

### 感染者の年齢構成



#### (4) 第4波(令和3年5月～6月※)

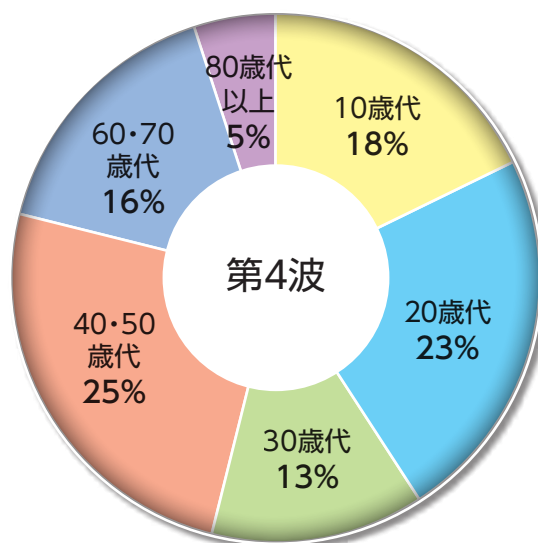
※「第4波」の定義を本対応記録では令和3年5月1日～令和3年6月30日とする。

- 令和3年4月下旬より本市での感染が増加傾向となり、5月12日には、1日の感染者数が当時の過去最高となる88人となった。
- 5月の感染者数は1,413人となり、初めて、一月の感染者数が1,000人を超えることとなった。
- 感染拡大の原因は、従来より感染力の強い変異株である「アルファ株」の影響と考えられ、福岡県におけるアルファ株の割合は、4月上旬は約50%であったが、5月中旬には約90%となった。
- 第4波では、若い世代での感染が多く、50歳代以下が感染者数全体の約79%を占めた。また、軽症や無症状の若い世代の感染者が多かったため、自宅療養者が大幅に増加した。
- 感染者に占める高齢者の割合が少なくなり、高齢者施設でのクラスターは、件数、人数ともに減少した。

データ項目	数値	備考
感染者数	1,852人	令和3年5月：1,413人 令和3年6月：439人
1日の最大感染者数	88人	令和3年5月12日 ※第4波までの過去最大
重症者数	33人	重症率：1.78%
死亡者数	26人	死亡率：1.40%
検査数	34,354件	
1日の最大検査数	1,064件	令和3年6月8日
直近1週間の10万人あたりの 累積新規感染者数(最大値)	51.97人	令和3年5月20日 ※第4波までの過去最大
クラスター疑い事例数	16件	令和3年5月：13件 令和3年6月：3件

※本市保健所で把握した数値を記載

### 感染者の年齢構成



## (5) 第5波 (令和3年8月～9月※)

※「第5波」の定義を本対応記録では令和3年8月1日～令和3年9月30日とする。

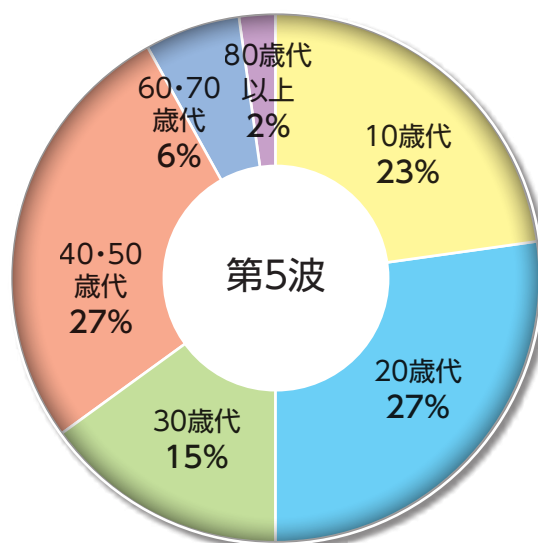
- 国内で感染力が非常に強い「デルタ株」が猛威を振るいはじめ、本市においても、令和3年7月下旬から感染者が増加傾向となり、8月を中心に、当時としては、過去最大の感染拡大となった。8月18日、9月1日には、一日の最大となる229人の感染者が確認された。
- 福岡県におけるデルタ株の割合は8月上旬に約70%、9月上旬に約90%となり、アルファ株からデルタ株への置き換わりが進んだ。
- 第5波では、感染者全体に占める60歳以上の割合は約8%であり、若い世代での感染が多く、10歳代・20歳代で全感染者数の約半数を占めることとなった。若い世代の感染に加え、軽症・無症状の感染者が急増したことで、第4波同様、自宅療養者が急増した。



データ項目	数値	備考
感染者数	5,209人	令和3年8月：3,827人 令和3年9月：1,382人
1日の最大感染者数	229人	令和3年8月18日、9月1日 ※第5波までの過去最大
重症者数	24人	重症率：0.46%
死亡者数	16人	死亡率：0.31%
検査数	48,896件	
1日の最大検査数	1,780件	令和3年8月26日 ※第5波までの過去最大
直近1週間の10万人あたりの 累積新規感染者数(最大値)	135.09人	令和3年8月24日 ※第5波までの過去最大
クラスター疑い事例数	29件	令和3年8月：22件 令和3年9月：7件

※本市保健所で把握した数値を記載

### 感染者の年齢構成



## (6) 第6波(令和4年1月～6月※)

※「第6波」の定義を本対応記録では令和4年1月1日～令和4年6月30日とする。

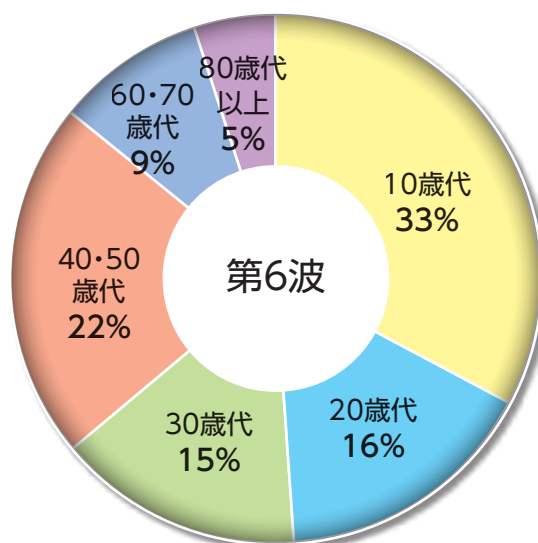
- 第5波で感染拡大をもたらした「デルタ株」にかわる新たな変異株「オミクロン株」が令和3年11月末に国内で、12月下旬には県内で確認された。
- 本市では、1月中旬から、急速に感染者が増加傾向となり、2月を中心にこれまでにない感染拡大となった。
- 感染者数は、2月中旬から減少に転じるが、3月下旬より、オミクロン株BA.1からBA.2系統への置き換わりとともに、再び感染拡大傾向となった。

- 第5波と同様、若者を中心とした現役世代の感染者が増加した。年代別では50歳代以下が約86%となり、そのうち20歳代以下が約半数を占めた。また、第6波では、10歳代が約33%を占め、感染者の低年齢化が目立った感染拡大となった。
- 感染拡大の要因となったオミクロン株については、デルタ株に比べ、感染力が強い一方、重症化リスクは相対的に低いものとされ、結果として自宅療養者が急増した。

データ項目	数値	備考
感染者数	61,947人	令和4年1月：8,565人 令和4年2月：16,073人 令和4年3月：11,902人 令和4年4月：13,234人 令和4年5月：9,481人 令和4年6月：2,692人
1日の最大感染者数	1,006人	令和4年2月3日 ※第6波までの過去最大
重症者数	35人	重症率：0.06%
死亡者数	181人	死亡率：0.29%
検査数	244,041件	
1日の最大検査数	3,512件	1月29日 ※第6波までの過去最大
直近1週間の10万人あたりの累積新規感染者数(最大値)	591.94人	2月4日 ※第6波までの過去最大
クラスター疑い事例数	39件	令和4年1月：12件 令和4年4月：13件 令和4年5月：11件 令和4年6月：3件

※本市保健所で把握した数値を記載

感染者の年齢構成





## (7) 第7波(令和4年7月～9月※)

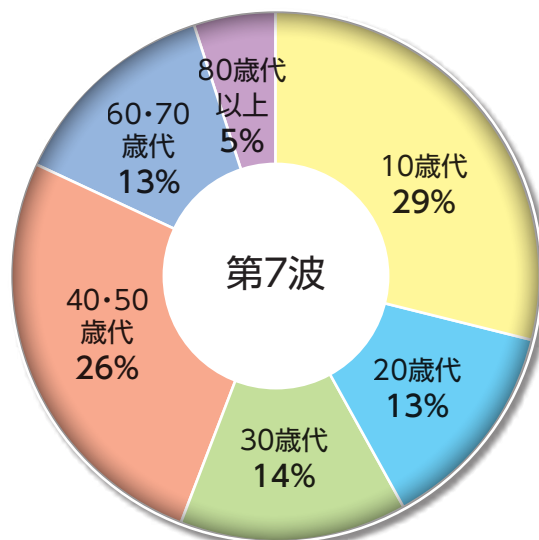
※「第7波」の定義を本対応記録では令和4年7月1日～令和4年9月30日とする。

- 海外では、第6波で猛威を振るったオミクロン株BA.1、BA.2から同様の亜系統であるBA.4、BA.5等への置き換わりが進み、国内でも、令和4年5月12日にBA.4、BA.5が確認された。
- 本市においても、7月に入ると感染者の増加傾向が顕著となり、急速に感染が拡大していった。
- 7月下旬からは、1日1,000人を超える感染者が何度も確認されるようになり、過去最大の波となった。
- 重症率は、第6波同様、低い状態で推移し、市内の重症病床使用率も19.3%と第6波(41.9%)より大幅に減少した。一方で、軽症、無症状者の増加により、自宅療養者は7月31日に2万人を超えた。
- この第7波では、発生届の対象を、65歳以上の者、入院を要する者など4類型に限定し(全数届出の見直し)、医師の負担軽減、保健医療体制の強化・重点化を進めた。この見直しにより、本市では、陽性者のうち、発生届が提出される割合は、4分の1程度となった。

データ項目	数値	備考
感染者数	105,924人	令和4年7月：30,306人 令和4年8月：59,460人 令和4年9月：16,158人
1日の最大感染者数	2,897人	令和4年8月11日 ※過去最大
重症者数	21人	重症率：0.01%
死亡者数	176人	死亡率：0.17%
検査数	197,896件	※令和4年9月26日まで
1日の最大検査数	4,627件	令和4年8月2日 ※過去最大
直近1週間の10万人あたりの累積新規感染者数(最大値)	1,723.63人	令和4年8月24日 ※過去最大
クラスター疑い事例数	31件	令和4年7月：27件 令和4年8月：4件

※本市保健所で把握した数値を記載

感染者の年齢構成



## (8) 第8波(令和4年11月～令和5年2月<sup>※</sup>)及び5類感染症への移行

※「第8波」の定義を本対応記録では令和4年11月1日～令和5年2月28日とする。

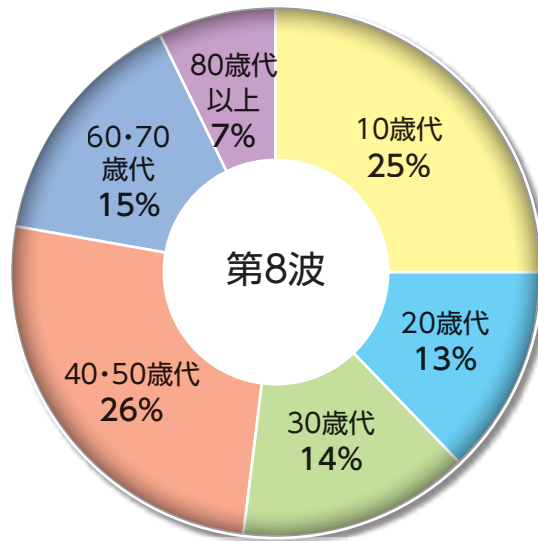
### ア 第8波

- 第8波当初は、オミクロン株BA.5が主流であったが、新たな変異株のBQ.1.1やXBB株が増え始め、感染拡大の一因となった。結果的に本市では第7波に次ぐ感染者数を記録した。
- オーストラリアにおいて約3年ぶりに季節性インフルエンザが流行したことを受けて、日本においても新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行が懸念された。
- 令和4年12月に入ると感染者の増加傾向が顕著となり、市内の病床使用率も急上昇した。令和5年1月には、3年ぶりに行動制限がない年末年始を挟み、1日2,000人以上の新規感染者が確認される日もあり、1月11日には、病床使用率が過去最大の86.1%に及んだ。
- オミクロン株以降、重症率・死亡率は低下し、感染者の大半は軽症又は無症状であったが、重症者数、死亡者数ともに第7波より増加した。

データ項目	数値	備考
感染者数	80,510人	令和4年11月：9,159人 令和4年12月：33,126人 令和5年1月：32,790人 令和5年2月：5,435人
1日の最大感染者数	2,574人	令和5年1月7日
重症者数	58人	重症率：0.07%
死亡者数	259人	死亡率：0.32%
直近1週間の10万人あたりの累積新規感染者数(最大値)	1,412.06人	令和5年1月12日

※本市保健所で把握した数値を記載

感染者の年齢構成



## イ 5類感染症への移行

- 令和5年1月、厚生労働省の厚生科学審議会において、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、オミクロン株とは大きく病原性が異なる変異株が出現するなどの特段の事情が生じない限り、令和5年5月8日から感染症法上の「新型インフルエンザ等感染症」に該当しないものとされ、「5類感染症」に移行した。
- 感染症法上の位置付けが「5類感染症」へ移行されることに伴い、
  - ・ 陽性者への外出制限や就業制限の廃止
  - ・ 医師による発生届の提出や保健所による健康観察、濃厚接触者の特定の廃止
  - ・ 検査費等の公費負担の終了（外来受診・入院・検査：自己負担）
  - ・ 感染者数は「定点把握」へと変更
 などの取扱いに変更された。（医療費の一部については、9月まで公費負担の対象）
- 5類移行後の医療提供体制については、幅広い医療機関で新型コロナウイルス患者が受診できるよう、必要となる感染対策や準備を講じつつ、段階的な移行を目指すこととされた。